



それぞれの鐘を鳴らすために

大隅教育事務所 総務課長 松村 賢志

2024年パリオリンピックの陸上女子やり投げで、金メダルを獲得した北口榛花選手。日本の女子選手が五輪の投てき種目で、表彰台に立つのは史上初めてのことである。陸上各種目の金メダリストだけが鳴らすことのできる『勝利の鐘』。多くの歓声に包まれながら力強く鐘を鳴らす姿は、印象的なシーンであった。試合後のインタビューにハッとさせられた。「ここでやらなくてはという思いもあったのでは？」の質問に対し、北口選手は「・・・シーズン最初の方があまりうまくいなくて、不安な部分がたくさんあったままパリに臨んでいたのも、本当に誰かが信じてくれなかったら、ここに立てなかったと思いますし、・・・すごく有り難いです。」と答えた。北口選手が「誰かが信じてくれなかったら」というように、支えてくれる存在があるということは、多くの勇気と前に進む力を私たちに与えてくれるということである。ふと振り返ると、「私自身は誰かの支えになっているのだろうか、なれていないな～」と自責の念が沸いてきた。同時に、「信じてくれている」と相手を感じるかどうかは、日頃の信頼関係はもちろんのこと、いざという時に相手とどう向き合っているかが、とても大事なことであり、「相手を思う気持ちは、相手に通ずるものであってほしい。」と思った。

現代社会においては、子供たちが様々な要因から不安を抱えることが増えている。特に、家庭環境や学校生活、友人関係などが影響を与えることが多く、一人で不安を抱える子供は少なくない。このような不安を軽減するためには、まず、親や周囲の大人が子供の気持ちに寄り添い、理解することに努めるとともに、子供が不安を感じている時には、その気持ちを受け止め、共感する姿勢が大事とされている。教育行政に携わる者として、今私にできることは、子供たちが不安なく生活できる環境を整えられるように、改めて自らに与えられている役割を、しっかりと果たしていくとともに、子供たち一人一人が個性を輝かせて、それぞれの『最高の鐘』を鳴らすことができるように、エールを送り続けることだと思っている。



「学校訪問」のお礼

本年度の「大隅教育事務所・各市町教育委員会合同計画学校訪問」が10月をもって終了しました。訪問校の皆様には、丁寧な準備等心より感謝申し上げます。

訪問校では、靴棚に整然と並ぶ靴や、子供たちの作品に寄せられた温かいコメントが印象的で、学校全体の落ち着いた雰囲気や温もりを感じることができました。また、タブレット等を用いて学び合う子供たち、それを見守ったり、学びの深まりを促したりする伴走者としての教師、それぞれの思いで活気に満ちた教室に、大変嬉しくなることでした。

校長先生の思いが込められた学校経営と、それに応える先生方や子供たちの日々の努力の姿が、このようなよい環境を生み出しているのだと実感しました。

今後、市町教育委員会や学校と共に、訪問を通じて得た情報やよい取組を共有したり、教育活動の成果や課題について考えたりしながら、一緒によりよい教育環境をつくっていきたいと考えております。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。





県・地区研究協力校研究公開（垂水市立垂水小学校）

令和6年7月4日（木）に、垂水市立垂水小学校にて、研究公開が行われました。垂水小学校は、研究主題を『考える楽しさ』『分かる・できる喜び』を実感し、主体的に学びに向かう子供の育成～算数科における指導法の改善と教科担任制を取り入れた学習指導を通して～と設定し、2年間の実践的な研究に取り組んでられました。

当日の4年生の授業では、児童が、教材や学習形態等を選択して学習を進める「単元内自由進度学習」に取り組みました。児童の学習状況に応じた授業者の適切なファシリテートの下、既習事項を活用し課題解決に向け、主体的に学ぶ児童の姿が見られました。5年生の授業では、与えられた学習問題を解くためにどのような式を立てればよいか、今までの学習から見通しを立て、図や表を使って自分の意見を交流させました。授業研究では、「主体的に学びに向かう子供の育成における自由進度学習の有効性」、「数学的に表現し、伝え合う活動の工夫と教科担任制を取り入れた学習指導の在り方」の視点で協議が行われました。参加者からは、垂水小の教科担任制の取組状況や自由進度学習に対して質問が多く出され、活発な意見交換がなされました。



【研究公開報告】



県「運動大好き」かごしまっ子」育成推進事業推進校研究公開（志布志市立伊崎田中学校）

令和6年9月19日（木）に、志布志市立伊崎田中学校にて、研究公開が行われました。研究主題「夢や希望をもち、目標に向かって自ら学び、仲良く、心身を鍛え自立できる生徒の育成～生徒が楽しく、意欲的に運動に取り組むための授業・環境・意識の改善～」を掲げ、「教科体育」「教科外体育」「家庭・地域との連携」の3つの観点から研究に取り組んできました。

当日は、第2学年「バレーボール」の授業が行われ、個別の課題に応じて補強運動に取り組む姿や、タブレットで動きを確認しながら改善策を話し合い、練習に取り組む姿など、課題解決を図る様子が見られました。研究協議でも、「課題に応じた補強運動が参考になった。」「主体的に話合いや運動に取り組んでいた。」「バレーの技能が身に付いていた。」「十分に運動する時間があつた。」「仲良く楽しそうに活動していた。」等の意見が聞かれました。運動や発言が苦手な生徒への支援の在り方や、より学び合いを活性化させる手立て等についての協議も盛り上がり、体育指導の充実に向けて研修を深める貴重な機会となりました。



地区研究協力校研究公開（志布志市立森山小学校）

令和6年9月26日（木）に、志布志市立森山小学校にて、研究公開が行われました。

研究主題は、「主体的・対話的で深い学びの中で、『きっとできる!』という自信を育む好循環な授業づくり～自己効力感に焦点を当てたチーム支援【目標達成・協調学習・帰属意識】～」です。

「大好き自分」「大好きみんな」「大好き森山」

当日は、発達の段階に応じて目標を明確にした全校一斉学級活動の在り方や、リーダー・フォロアーの育成、他者との交流活動と環境の工夫などが研究内容として示されました。公開授業の全校一斉学級活動では、前時までの話合いで決まった「自分の考えとその理由を伝える活動」が行われました。温かい雰囲気の中で安心しながら自分の考えとその理由を伝え合う姿が見られました。振り返りでは、「前よりはっきり自分の考えを言えてよかった。」などの発表があり、児童が自己効力感の向上を実感する授業となりました。児童の発表をうなずきながら聞いたり、価値付けたりする教師の温かい雰囲気づくりが研究協議の話題となりました。



【研究公開報告】





地区臨時的任用教員研修会

大隅地域振興局で、第2回臨時的任用教員等研修会(希望研修)を9月に実施しました。

研修Ⅰでは、授業動画を活用して、表出した児童生徒の姿から「学習者主体の授業づくり」のポイントを見付ける場を設定しました。

研修Ⅱでは、参加された先生方が今後実施する授業について、本所指導主事と1対1で対話しながら、研修Ⅰのポイントを生かして一緒に考える時間を設定しました。



子供たちが自ら考えて「どうすればよいか。」「どうしたいか。」に発展するような授業、問い掛けができるようになりたいです。
【参加者の振り返りから】



全国学力・学習状況調査結果から

各学校では、全国学力・学習状況調査の分析を終え、全職員で自校の成果と課題について共通理解を図り、指導法改善の取組や補充指導等に生かしているのではないのでしょうか。今年度の主な結果は以下のような状況となります。

学力調査	小学6年		中学3年	
	国語	算数	国語	数学
全国(公立)	67.7%	63.4%	58.1%	52.5%
鹿児島県	69%	62%	56%	50%
大隅地区	65%	58%	52%	46%

児童生徒質問紙	自分にはよいところがあると思う。【自己肯定感】	
	小学校	中学校
全国(公立)	43.4%	40.4%
鹿児島県	36.8%	36.0%
大隅地区	31.6%	36.7%

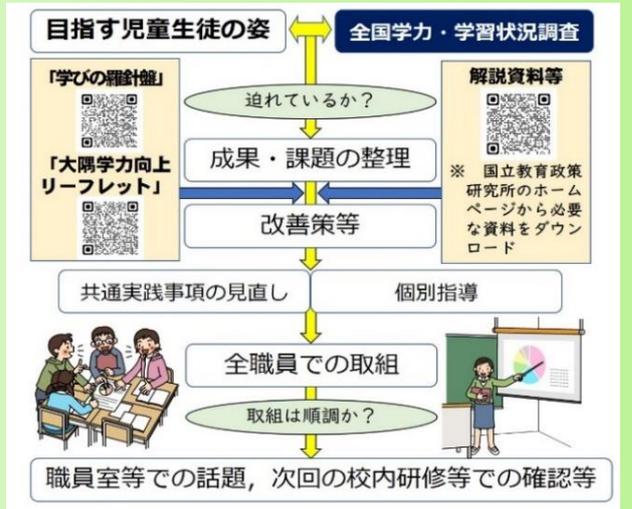
児童生徒質問紙	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日活用した。【ICT活用】	
	小学校	中学校
全国(公立)	25.3%	31.0%
鹿児島県	31.0%	31.6%
大隅地区	38.6%	36.1%

児童生徒質問紙	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。【主体的な学び】	
	小学校	中学校
全国(公立)	29.5%	27.2%
鹿児島県	27.6%	24.1%
大隅地区	26.7%	26.0%

児童生徒質問紙	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。【省察力】	
	小学校	中学校
全国(公立)	31.9%	27.1%
鹿児島県	33.4%	26.1%
大隅地区	34.8%	28.4%

大隅地区の学力調査の結果は、全教科で全国平均を下回る結果となりましたが、児童生徒質問紙の結果から授業改善が進んでいることが分かります。例えば、「授業でPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日活用した」と「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答している割合は、小、中学校ともに全国平均よりも高い結果となっています。これは、各学校で児童生徒がタブレット端末等を使用する場や、振り返りの場を設定する授業づくりの結果であると考えます。

今後も継続して「学習者主体の授業」実現に必要な非認知能力等に着目し、見いだした改善策を該当する学年だけではなく、全児童生徒に生かすことが重要です。下図のように、各種資料等を効果的に活用し、全職員での組織的な取組につながっているか再度自校の状況を把握し、日々の授業につなげていきましょう。



※ 児童生徒質問紙の数値は、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合(選択肢4つのうち最も肯定的な回答の割合)



「学習者主体の授業」実現プロジェクト

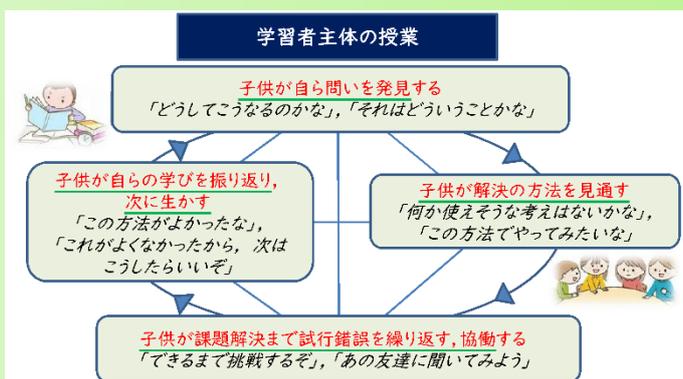
本年度から「学習者主体の授業」実現プロジェクトが始まり、大隅地区では曾於市立末吉中学校校区を中心とする実践モデル校区として、以下の6つの中学校区で小、中学校が連携を図りながら取組が進んでいます。

	校区名
実践モデル校区	曾於市立末吉中学校区
実践校区	鹿屋市立串良中学校区
	大崎町立大崎中学校区
	錦江町立田代中学校区
	南大隅町立根占中学校区
	肝付町立国見中学校区



この「学習者主体の授業」実現プロジェクトの目的の一つである子供の姿を基に語り合う研修については、多くの小、中学校で浸透が図られてきており、校種や教科、学年を超えて積極的に語り合う先生方の姿が見られるようになってきています。

また、授業についても本所及び関係市町教育委員会の担当者、校内の先生方が連携しながら、授業づくりに取り組む中で、「学びの羅針盤」に掲載されている右図の「学習者主体の授業」に挑戦していただいております。



子供が自らの問いを解決するために、自己の取組の状況に応じて学びの計画を調整する姿や、試行錯誤を繰り返し、協働して学ぶ姿等が見られる授業が増えてきています。

子供の学びの姿を参観したり、先生方と授業について語り合ったりすることを通して、先生方が自分の授業等を見つめ直し、「学習者主体の授業」について考え、明日からの授業づくりや研修の在り方、職員室での語り合う雰囲気づくり等について自分にできることから取組もうとする先生方が増えてきていることに心強く感じています。

学習者主体の授業について、今自分が日頃している授業をどのように変えていかなければならないか、どのような発向をすれば子どもたち(学習者)が主体となる授業にすることが出来るのかなど、とても難しく捉えていたが、今日の研修を受けて、自分ができそうな取組や今後の教員としての姿が分かり、少しずつ授業づくりを進めていこうだと感じた。「自分で学ぶ子ども」の育成に今後力を入れて取り組んでいきたいと思う。

子供一人一人がわくわくするわあてや問いともち、「分かった!」「おもしろかった!」が聞ける実践と(た)くなりました。教頭という立場ではなかなか実践と自分とすることが難しくなりましたが、それならば、先生方の授業がそのように実現していくために、授業について語り合い、アイデアを出し(合)えるような職員室の雰囲気づくりに努めたいと思います。
比較する → こちらがよい → なぜなら... 時間と必要とあるクリティカルシンキングを大切にしたいと思います。

各学校でも「学習者主体の授業」を実現するための取組を進めていると思います。困っていることや悩んでいることがある場合は、一緒に授業づくりや研修の在り方等について考えていきましょう。



大隅地区道徳教育研修会（垂水市立垂水中央中学校，志布志市立尾野見小学校）

垂水市立垂水中央中学校 令和6年7月3日(水)

地区中学校道徳教育研修会を，垂水中央中学校で開催しました。

公開授業では，道徳的価値の理解を基に道徳性を高められるよう，理想と現実のずれに気付かせる導入の工夫や，振り返りの視点を設定し，深めた自分の生き方や考え方を表現させる工夫が行われました。授業研究においても，「アンケートの効果的な提示が生徒の思考を深めていた」など，先生方が熱心に協議する様子が見られました。



【第1学年の様子】

志布志市立尾野見小学校 令和6年10月3日(木)

地区小学校道徳教育研修会を，尾野見小学校で開催しました。

公開授業では，ワークシートを工夫して道徳的価値を自分事として捉えられるようにしたり，発問を工夫してよりよい生き方について自分の考えを深められるようにしたりしていました。参加された先生方の感想には「学級の実態に合わせながら今後の授業に生かしていきたい」という日々の授業改善への強い決意も見られました。



【第3学年の様子】

地域が育む「かごしまの教育」県民週間

「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」において，管内各学校で地域の特色を生かした取組や地域の皆様との交流活動が行われました。子供たちや職員のさわやかな挨拶，生き生きと活動している様子，そして地域との関わりが感じられる展示や設営物等から，素晴らしい取組がなされていることを実感しました。

中でも，大崎町立大丸小学校では，11月11日（月）に地域が育む「かごしまの教育」県民週間表彰が行われました。ポスター原画の部で学校賞と入選（小学6年：2人）を受賞するという素晴らしい成果を収めました。当日は，県教育委員会の堀江 美智代委員から表彰状をいただきました。

今後も，地区内の教育の充実と発展，地域全体で子供たちの成長を支え合う環境を築いていきたいです。



教育活動実践記録(募集)

毎年たくさんの教育活動実践記録を提出して下さりありがとうございます。昨年度は738点の応募がありました。自身の教育実践を記録に残すことは，教師の資質・能力の向上にもつながります。

今年もたくさんの作品をお待ちしております。

【募集について】

応募者：大隅地区内の学校に勤務する教育関係者
内容：学校教育や社会教育等における日々の授業や教育活動に関する実践記録（具体的な事例，工夫した点，成果など）

分量：A4で10枚以内（表紙を除く。）

締切：各市町教育委員会が設定する日

提出方法：各学校に送付済の募集要項をご覧ください。

県のHPには，昨年度までの優秀な実践記録が載っています。どのようにまとめればいいのか分からない方は，是非参考にしてみてください。



【過去の作品集】

